

[原著]

自己理解と他者理解を深める事例検討会の意義と教育的効果 －患者との援助的関係形成能力の育成に向けて－

多久島 寛 孝¹⁾ 田 中 康 子¹⁾ 中 原 恵 美¹⁾

羽田野 花 美¹⁾ 山 本 勝 則²⁾

Significance and Educational Effects of Case Studies Improving Understanding of Self and Others : Towards Developing a Practical Ability to Build Supportive Relationship

1) 熊本保健科学大学保健科学部看護学科

2) 札幌市立大学

Hiroataka TAKUSHIMA, Yasuko TANAKA, Megumi NAKAHARA,
Hanami HADANO, Katsunori YAMAMOTO

【和文抄録】

事例検討会に用いているプロセスレコードおよび実習終了後に実施している授業評価の記載内容のうち事例検討会に関する記載を分析することにより、自己理解と他者理解を深めるための教育方法を検討した。その結果、以下の結論を得た。

1. プロセスレコードの記載は、学生自らの対応のあり方やコミュニケーションの方法あるいは対象者の思いを理解しようとしており、患者の言動に関心を寄せていた。プロセスレコードの活用は、学生自らの言動と患者との間にどのようなことが起こっているかあるいは患者との対応場面がどのような場面であったかを学習できる有効な方法である。
2. プロセスレコードの記載内容のうち、学生の態度をPorterの態度分析5類型（調査的態度、支持的態度、解釈的態度、評価的態度、理解の態度）で分類した結果、調査的態度が最も多かった。調査的態度が多かったことは、学生が自己を中心に展開している場面が多いこと、さらに技術として真の傾聴が用いられていないといえ、自己や他者の理解を深めていくためには、援助する側の態度が患者にとってどのようなことを意味するのかについて学習することやそのような学習の場を用意することが教育上の課題である。
3. 授業評価では、事例検討会について学生の95.6%が有意義で役に立ったと回答した。記載内容から、事例検討会は自己理解と他者理解を深める教育方法として有効な方法であることが示唆された。

キーワード：自己理解 他者理解 教育方法 事例検討会 プロセスレコード

I. 緒 言

コミュニケーションにおける看護学生の現状として、患者の役に立ちたいと思っていても、コミュニ

ケーション技術が未熟なため、看護過程の情報収集において自分中心の「きく」になり患者に不快な思いをさせることがある¹⁾、また学生が体験した患者とのかかわりで悩んだことからの学び²⁾として、

「対象者を知る必要性」「対象者と関係形成する重要性」「対象者を知って援助するためのコミュニケーションの重要性」等があげられている。これらから、ケアを実践していくには、ケアの対象者との人間関係の形成が重要であり、そのための援助的関係形成能力の育成への取り組みが必要である。

Alfaro-LeFevre³⁾は、ケアができる能力は自分自身と相手を理解することであり、共感的に傾聴することにより問題の本質についての理解が深まり、人間の反応に対するケアリングを養うことができるとしている。山田ら⁴⁾は、看護師が患者を共感的に理解し効果的なコミュニケーションを行うための前提条件として、看護師自身が患者およびその家族との関係の中で自分自身のあり方があるがままに認知し、それを受容できるように自己認知の質を高めることが必要であると指摘している。Combs⁵⁾らは、援助は受容で始まるとし、受容とは是認や容認を意味するのではなく、直面すること、すなわちわれわれがよろこんで、あるがままの世界に立ち向かう意志であると示した。これらの論文は、ケアができるためには、いかに自己理解と他者理解が重要であるかを示している。

他方、見藤⁶⁾は、人の話を思惑や価値観で聴かないためには、心を空や白紙の状態にしなければならないが、看護教育では相手のアセスメントや、状況判断、評価を常に行うように要求するため、これらの行為と同時に心を白紙にして聴く姿勢は両立しないとした。そのことは、患者とのコミュニケーションギャップを招き、傾聴を阻害しやすくする。傾聴が阻害されるのは、相手の話を一方的に遮る時、相手が言おうとしていることはもう分かっていると思い込んでいる時、患者家族に対して批判的になっている時など⁷⁾である。このような問題が指摘されるのは、看護師が対人援助職でありながら、他者の話を聴くことがいかに難しいかを示しており、傾聴や受容といったことの難しさ、そして自己理解と他者理解が容易ではないことも示している。

患者への対応という観点にたてば、顧客満足などビジネスの考え方が医療現場へ導入され、「医療はサービス業」との認識の高まりもあり、現在、多くの医療機関や教育の場で接遇教育が行われている。接遇教育は基本的な顧客対応という点で重要ではあるが、作法そのものに焦点があり、自己理解や他者理解とは異なる視点であると考ええる。

大段⁸⁾は、「自分のなかにある心をはっきりと洞察できる。そうした『自己が確立』した状況にならないと眼の前の人をしっかりと受容し理解することはできない。つまり、『他者への理解』と『自己への理解』は相即している。対人援助職者は、自己の問題をないがしろにすることはできない。自己の修練こそが根本である」とし、「人間関係能力の学習においては、講義中心のやり方は効果がない」としている。それゆえ、我々は、患者との間に援助関係をつくりだす能力の育成のために、臨地実習における患者とのやりとりの場面にみられる対応の一つひとつを丁寧に検討していく作業が必要であると考え、大段が指摘した自己修練の方法のための教育のあり方の検討や教材作成等に取り組んでおり、今回は事例検討会について分析を行った。

Ⅱ. 研究目的

本研究の目的は、患者との援助関係形成に向け、自己理解および他者理解を深めるための事例検討会の意義・効果を分析し教育方法の検討を行うことである。

Ⅲ. 事例検討会について

A大学では、1年次および2年次に基礎看護領域の実習を行い、3年次に小児看護・母性看護・成人看護・老年看護・精神看護・在宅看護の領域別実習を行っている。このうち、老年看護領域の実習では、個別到達目標の項目のひとつに「自己理解と他者理解」をあげ、臨地実習（2週間）の最終日に事例検討会を行っている。

討議資料は、実習期間中に個別の学生が記したプロセスレコードである。事例検討を行うグループは、学生3～4名で編成し、各々のグループで事例検討会で取り上げる事例を選択した後、討議を行う。討議対象のプロセスレコードを、全員で読み合うことから始める。読むときは、患者役・学生役に役割分担をし、声を出して事例を読み上げる。

その後、次の手順で意見を出し合う。

- ①一つひとつの患者の言動に対して、自分だったらどう感じるか、どう思うか。
- ②一つひとつの学生の言動に対して、患者はどのような感情を抱き、どのように思ったか、それが患

者の言動にどのようにつながっているか。

- ③その時その場で患者が訴えようとしたことは何か、学生はどのように援助しようとしていたか。患者は自分が置かれている状態やその時の状況をどのように知覚していたか。患者が知覚したことを、学生はどのように受け止めていたか。
- ④患者が求めていたことと、学生がやろうとしていたこととの間にズレはなかったか。ずれが生じたとすれば、ずれが生じたのは何故か。
- ⑤学生は患者の言動に対する受け止め方を患者に確かめていたか、確かめられなかったのは何故か。患者と学生の思いは一致していたか。
- ⑥その場面における学生の意図と結果はどうなったか、である。

加えて、次の点を留意事項としてあげている。討議の場では、「ああすればよかった」「こうすればよかった」という見方はせずに、記載された内容について「そのときはどんな反応であったか」「それに対してどのように発言したのか」「それに対して患者はどうであったか」等々、まずは事実を確認していき、結果として、その場面はどのような場面であったか、何が起こった場面であったか、なぜそうになったか等々をふりかえることを主に行っている。

IV. 研究方法

1. 対象

- 1) 2013年度のA大学看護学科3年次生が老年看護領域の臨地実習で記述したプロセスレコード(表1)のうち、事例検討会の資料として学生が選択した30事例を対象とした。
- 2) 学生が記載する授業評価(Faculty Development, 以下FD)の記載内容から、事例検討会に関する記述内容を対象とした。

2. 分析方法

- 1) プロセスレコードについては、記述理由を内容ごとに整理した。また、プロセスレコードの記述のうち、学生の患者への態度(「私が考えた

り、感じたりしたこと」「私が言ったり、行ったりしたこと)」について、Porterの態度分析5類型^{9,10)}(表2)を用いて分類し検討した。

- 2) 事例検討会に関する記述については内容ごとに整理した。

なお、分析にあたっては、研究メンバー5人で検討を重ねた。

3. 倫理的配慮

研究者らが所属する機関の倫理審査を受けた(疫24-37)。学生には、研究の趣旨を説明し、個別に記載したプロセスレコード、事例検討会で記録したグループワークの討議記録、実習終了後に学生が記載する授業評価(FD)の記載内容を研究および教材利用の対象とすること、協力は自由意志であり協力の有無に関わらず何ら協力者への支障はなく成績評価とは一切関係がないこと、プライバシーは確保されること等を口頭および文書で説明した後、協力を同意する学生から同意書を得た。

V. 結 果

1. プロセスレコードの記述理由(表3)

「うまく返答ができなかった」「患者の思いを把握(確認)する」「声かけが適切であったか」「どのように対応(声かけ・行動)すればよかったか」などについて、振り返りをしようとする内容であった。

2. 学生の態度分析

プロセスレコードの「私が考えたり、感じたりしたこと」「私が言ったり、行ったりしたこと)」について記述された内容は136記載であった。Porterの態度分析5類型で分類した結果、調査的態度63記載(46.3%)、支持的態度40記載(29.4%)、解釈的態度22記載(16.2%)、評価的態度9記載(6.6%)、理解的態度2記載(1.5%)であった。態度分析ごとの記載例を表4に示す。

3. 授業評価(FD)の記載内容(表5)

表1 プロセスレコードの用紙(一部)

患者の目つき・表情・言動	私が考えたり、感じたりしたこと	私が言ったり、行ったりしたこと	考察

授業評価では、事例検討会について学生の95.6%が有意義で役に立った（そう思う51.1%・ややそう思う44.5%）と回答し、有意義で役に立ったと思わない4.4%であった（あまりそう思わない3.3%・そう思わない1.1%）。

事例検討会に関する記載を内容ごとに整理すると、1) プロセスレコードについて、2) 事例検討会について、3) 患者との対応のあり方についての学びに分類できた。

1) プロセスレコードについて

「発言に対するいろいろな受け止め方」「自分のコミュニケーションの傾向がつかめた」「見直したことで、大事なところや、ズレの生じたこと気

づけたことで広い視野を学んだ」などの記載があった。

2) 事例検討会について

「受容、傾聴の側面は今後に必要なと思った」「自分のコミュニケーションの傾向、患者との関わり方への傾向に気づくことができた」「自分の思うコミュニケーションが必ずしも患者さんにとって正しいものではない、ということがわかった」「色々な場面においての他の患者さんとの関わり方を学ぶことができた」「自分の思い込みだけでなく、患者の思いを理解して看護すること」「いろいろな意見を聞くことができ考えを深められた」「自分の意見をいろんな方向から見られた」「いろ

表2 Counselor's Attitude (E.H.Porter)

態度5 類型	内容
評価的態度 (evaluative attitude)	援助者が、相手の発言に対して、善悪、正不正、適不適、有効無効などの判断をしていることを示す態度。 ◆何らかの形で、相手のなすべきこと、なすべからずことを指示している。つまり「基準に照らし合わせる」といった特質を持ち、客観的に外からこの患者を見、この患者を外から動かそうという態度である。
解釈的態度 (interpretive attitude)	援助者が、相手の発言に対して、何かを教えたり、その意味を知らせたり、また何かを示したりするような態度。 ◆これは、何らかのかたちで、「あなたはこういうふうを考えるべきだ」というふうに暗示している。その中身にある論理は、「因果関係の説明」である。例えば、「あなたがいまこうなっているのは、劣等感があるからです」といった発言によって示される。客観的に相手の人を外側から見て、外側から動かそうとしている態度などである。
調査的態度 (probing attitude)	援助者が相手の人についてもっと知識や情報をあつめる、あることについてもっと議論して相手の意向を知りたいといった態度。 ◆医療の領域ではもっとも普通のやり方である。何らかのかたちで、相手の人がもっと情報を提供し、もっとある点について話し合いを展開することをのぞんでいることを示す。調査的あるいは診断的態度の内容にある論理は、「原因探求」であり、その原因がわかったならば、それに対する処理方法を考える、というところにある。客観的な構えに立って、外側から相手にはたらきかけ、それによって治療的成果をあげようとする態度である。
支持的態度 (supportive attitude)	援助者が、相手に「大丈夫ですよ」と保証したり、「あなただけではない」となぐさめたりして、深刻な感情や不安を緩和し、除去して落ち着かせようとする態度。 ◆「同情的」「温情主義的」な態度であり、援助者の主観的な心の動きを基本としている点では、「評価的態度」「解釈的態度」「調査的態度」とは異なるが、こちらのはたらきかけによって相手を変えてゆこうという点では同じアプローチである。支持的態度の内容を検討してみると、「あなたの現在の感じ方や考え方は、不必要である」と言っていることになり、援助者の意図とは別に、事実として相手の心の動きを抑圧しようとするのはたらきかけになる。
理解的態度 (understanding attitude)	援助者が相手の言葉、感情、ショック、知覚などをありのまま受け取り、正しく理解しているかどうか、それを確かめようとする態度。「共感」「受容」といわれる態度を含む。 ◆この態度は、相手の人にとって外側からののはたらきかけではない。「評価的態度」「解釈的態度」「調査的態度」「支持的態度」がすべて外側からののはたらきかけであったのに対して、理解的態度は内側からののはたらきかけである。

出典：E.H.Porter. 1950.An Introduction to Therapeutic Counseling, 大段智亮.1986.人間の看護の出発点

んな人からの意見をきくことで違った視点から看護できた」「いろいろな意見を聞いてより学びが深まった」「自分だけの考えだけでは見えてこなかったことを知ることができた」「他の学生の考えを聞くことはよい勉強になった」「様々な捉え方がある」「他の人の考えを聞くことで、自分の

考えの参考にしたり、こういう考え方もあるということや学べた」「自分が考えていること以外の考えや指摘されて分かることが多い」「人はそれぞれ考え方が違う」などの記載があった。

3) 患者との対応のあり方についての学び
「言動や表情には必ず意味がある」「患者の表情

表3 プロセスレコードを記載した理由

・ 患者の発言が衝撃的でうまく返答ができなかったため振り返ろうと思った
・ 患者がバイタルサインの測定を2日続けて断ったため、どのような言葉がけや行動をとるべきであったか振り返るため
・ バイタルサインの測定を拒否された理由を考察し、声かけは適切であったのかを振り返るため
・ 患者の発言をうまく聞き取ることができず、患者の思いを把握することができなかったため
・ 患者の機嫌がとても不安定であり、主な原因は何であるかもう一度考えてみたかったため
・ 患者の病気に対する思いを聞き、自分の返答でよかったのか、それとも何も言わずにそっとしておいた方がよかったのかを考えたいと思ったため
・ 患者が病気によって、以前のように自分一人で自由に生活を行えないということを改めて感じさせ、自尊心が低下してしまうことが、日常生活には多くあるということを感じたから
・ 患者に食事指導をした際に、うんざりした表情がみられたので、どのように対応をすればよかったのか考え直すため
・ 声かけを行ったが、一度の声かけでは伝わっていないのではないかと感じたため
・ バイタルサイン測定を嫌がられ続けた理由を考え、今後どのように関わればよいか考えたため
・ 身だしなみについて綺麗にしようという意識がみられ、その時の患者の思いを振り返ろうと思った
・ いつもは話しかけても頷くだけであったが、この時は患者自ら「気持ちよかった」と発言があり、自分のどのような声かけがそうさせたのか振り返ろうと思った
・ 患者は自尊感情が低下しており、年齢に対する価値が大きいことからプラス思考になるようにアプローチしようと考えた。会話中に自己否定的な発言があったため、プラス思考になるようにアプローチしたが会話に行き詰まってしまったため
・ 患者が同室患者のことが気になり、睡眠不足で少シイライラしていたことに対しての対応は適切であったのかを振り返るため
・ どのようにすると患者の本心を知ることができたのか、話題を変えるタイミングは合っていたのかを振り返るため
・ 患者は自分が認知症であることを本人はわかっているようでわかっていなかった。会話の中で、本人が自分の症状に気づき自分を悲観的にとらえているのに対して、どのように答えたらよいのかわからなかったため
・ 患者は本当はまだ学生に伝えたい気持ちがあったかもしれないが、それを学生の発言によって遮ってしまったかもしれないと思い再考したかった
・ 思考過程が混乱している様子がみられ、そのような患者への対応を振り返りたいと思った
・ 患者のケアの必要性を理解してもらい、快くケアを受けてもらうようにするため
・ 患者の発言に対して対応に困り、適切な対応について再考したいと思った
・ 患者の気持ちを引き出すことができなかった理由を検討するため
・ 自分の言動が患者に対して適切な対応であったかを考えるため
・ 学生の患者の対応のあり方を検討するため
・ 患者の訴えを傾聴できているかどうかを分析するため
・ 患者に勘違いをさせ不快な思いにさせてしまったと感じたため、どのように言うことが適切であったのかを考えるため
・ 患者が学生に不満をぶつけた場面の対応で自分のかかわりを振り返りたい
・ 記憶障害が疑われる場合での学生の患者へのかかわりを振り返りたい
・ 笑顔で話をしていて患者が急に暗い表情になり涙を浮かべるような会話の流れをつくってしまったため、自分の対応や発言について考え直すため
・ 患者に声かけを行った際に納得できていない様子がみられたため、学生のかかわりが適切ではなかったと思い、どのようなかかわりが適切であったのかを検討するため

表4 学生の態度分析ごとの記載例

(1) 調査的態度記載例

患者の目つき・表情・言動	学生が考えたり、感じたりしたこと	学生が言ったり、行ったりしたこと
①「泣きたくなるぐらい痒い。死にたいですよ」と笑顔はなく、下を向き、ため息をつきながら言う。 ④「全身が痒いです。何ででしょうか」胸や腕を触りながら言う。 ⑦持参している薬を指さし、「塗っておこうかな」と言う。「もう死にたい。苦しいですよ。楽しみもない」と言う。 ⑪もう盆栽はいいです。どうにかなるでしょう。	②死にたいと言うくらいに痒みが強いのだ。 ⑤薬は塗っているのだろうか。 ⑨痒みがあることで、とても苦痛を感じているのだ。話題を変えて死について考えないようにしよう。	③どこが痒いのですか。 ⑥薬は塗りましたか。 ⑩盆栽は楽しみではないですか。

(2) 支持的態度記載例

患者の目つき・表情・言動	学生が考えたり、感じたりしたこと	学生が言ったり、行ったりしたこと
①下を向き不安げな表情をしている。 ④「歩行器がないと歩けないし、手先も自由がきかない。もう寝たきりになってしまうのかな」と低く小さい声で言う。 ⑦「そうですかね」と無表情でつぶやくように言う。	②リハビリで入浴訓練がうまくいかなかったことを気にしているのだろうか。 ⑤患者の気持ちが後ろ向きになってしまう。何とか励まして気持ちを前向きにしたい。	③「今日も頑張りましたね。疲れていないですか」と声をかけた。 ⑥「でも、手術の後からとても上手に歩けるようになったじゃないですか。まだまだこれからです。大丈夫ですよ」と笑顔で明るい口調で言う。

(3) 解釈的態度記載例

患者の目つき・表情・言動	学生が考えたり、感じたりしたこと	学生が言ったり、行ったりしたこと
①ベッドで臥床したまま、服を脱ごうとしている。 ④「ああそうですか」と言いながらボタンをはずす。 ⑦「暑いから脱がせて下さい。お願いします」と言い、ボタンを全部外し上着の右腕半分まで脱いでいる。	②また服を脱ごうとしている。熱がでているのに服を脱いだら、悪くなるよ。 ⑤そうですかと言いながらどうしてボタンを外すのかな。	③「服を脱ぐと風邪をひきますから、服は着ておきましょう」と伝えた。 ⑥「ボタンは、とめておきましょうか」

(4) 評価的態度記載例

患者の目つき・表情・言動	学生が考えたり、感じたりしたこと	学生が言ったり、行ったりしたこと
①学生の声かけに何の反応も見せず、学生の顔を見ることもなく食事をしている。 ④首を横に振りながらも自分のペースを変えることなく食事を続ける。表情はうんざりしているようである。 ⑦聞いている様子だが、「わかったから」というような表情で食事をそのまま続けている。	②私が伝えたようにしてもらわないと誤嚥するかもしれないのに。 ⑤何回も言われてうんざりしているのかな。でも指導しないと誤嚥する可能性は高いよね。	③「もう少しゆっくり食べてみましょう。水分はとらなくてもよいですか」と声をかける。 ⑥「一口で入れる量が多いですよ。のどにつまるでしょう。のどに詰まってむせないように少しずつ食べてもいいですよ」と言う。

(4) 理解的態度記載例

患者の目つき・表情・言動	学生が考えたり、感じたりしたこと	学生が言ったり、行ったりしたこと
①「隣のおばあさんが、朝方の3時から4時くらいに起きて、私は眠れなかったのよ」と私の目を見ながら言う。 ④「そうなのよ。本当に面倒なのよ。でも、私は、昼間も暇だからね。こんな話を聞いてくれてありがとうね」と落ち着いた様子で話した。	②それで、夜は眠れなかったのだ。少しイライラしていてもいるようだな。	③「そうなのですね。お隣の方が朝方に起きられたので、眠れなかったのですね」と頷きながら言った。

表5 事例検討会での学び（＊重複している内容は削除した）

1. プロセスレコードについて

・プロセスレコードを通して色々な受け取り方を学んだ
・プロセスレコードでとても深い話ができ、自分にはない考え方だったり、自分になかった新たな知識を共有できた
・プロセスレコードを見直したことで、大事なところや、ズレの生じたこと気付けたことで広い視野を学んだ
・対象との関わり方をプロセスレコードを通して学べた
・プロセスレコードの再構成が役立った
・プロセスレコードで自分では気づくことのできない視点からの意見を聞くことができた
・プロセスレコードの見直しは有意義であった
・プロセスレコードで深い話ができよかった
・プロセスレコードで、新たな発見があってよかった
・プロセスレコードの考え方がわかった
・プロセスレコードが今まであまりわからなかったが、見る視点がわかってとても勉強になった
・プロセスレコードで考えを深めることができた
・プロセスレコード検討は、自分の傾向がわかった
・プロセスレコード検討において、自分の傾向や特徴が分かり、私の中で今まで一番理解が深まったプロセスレコード検討ができた
・プロセスレコードでとても深いグループワークができた
・関わり方についてなど学びが深まったためプロセスレコード検討会ができてよかった
・プロセスレコードでのまとめは分かりやすかった
・プロセスレコードで患者との関わりをみつめ直すことができた
・プロセスレコードの展開はとても勉強になった
・プロセスレコードの大切さを初めて知った
・プロセスレコードの内容、考えを共有できた
・プロセスレコードの検討で自分の傾向を知る機会になった
・プロセスレコードの分析で実習中のもやもやがすっきりした
・プロセスレコードで患者さんとの関わり方を学ぶことができた

2. 事例検討会について

・受容、傾聴の側面は今後に必要なと思った、でも実習の前に欲しかった
・自分の傾向に気づくことができた・自分のコミュニケーションの傾向、患者との関わり方への傾向に気づくことができた・自分の思うコミュニケーションが必ずしも患者さんにとって正しいものではない、ということがわかった
・色々な場面においての他の患者さんとの関わり方を学ぶことができた・自分の思い込みだけでなく、患者の思いを理解して看護すること
・学びを深めることができた・共有することや相談ができた・深く考える機会になった・次の対応につなげられると思った・もやもやが、少し取れた
・他の人の学びを聞くことで自分も多くの学びを得ることができた・他の人の学びをきくことができた・他学生の学びを共有できた
・学びをふり返る上で必要であったと考える・いつかは体験するであろう事例なので役に立った
・他学生の色々な意見を聞くことができた・他の学生の学びを共有できた・いろんな人の意見を聞けておもしろかった・皆の意見がとても参考になった・いろんな人の考えや意見がきけた・いろんな人の学びを聞くことができたためになったし自分を振り返れたから
・事例を振り返ることで自分の傾向が分かった・気づかない自分の傾向がわかった
・患者のかかわり方について考えるよい機会になった・自分では気づかなかった学びを知ることができた
・他の学生と一緒に自分の事例を第三者の視点で考えることができ、新たな視点で考えられた・みんな、細かく観察している
・色々な考えがあること・いろんな捉え方がある・色んな視点からみることが大事だということ
・色々な意見が聞けることで、今後の自分の行動に活かすヒントとなることを学べた・自分では思わなかった意見を聞くことができてよかった
・自分と同じ学びだけれど、視点が違ってこういう見方もあるのだと学べた・自分では考えることのできない意見をきくことができてよかった・自分が気づいていなかったり、考えたりできていなかったことを、気づくことができた点・自分では考えないような意見が聞けたためよかった
・いろんな意見を聞くことができ考えを深められた・自分の意見をいろんな方向から見られたこと・いろんな人からの意見をきくことで違った視点から看護できた・いろいろな意見を聞いてより学びが深まった・声かけの仕方や考え方のちがいはあったけどとても参考になった・自分だけの考えだけでは見えてこなかったことを知ることができた

- ・他の学生の考えを聞くことは、よい勉強になった・考える際の視点が増えた・様々な捉え方がある・他の人の考えを聞くことで、自分の考えの参考にしたり、こういう考え方もあるということを知った
- ・自分が考えていること以外の考えや指摘されて分かることが多い・色々な意見や学びをきくことができてよかった・人はそれぞれ考え方が違うこと

3. 患者との対応のあり方についての学び

- ・言動や表情には必ず意味がある・患者の表情やしぐさなどをしっかり読みとることが大事・関わり方、言動をどのようにとらえるか
- ・自分主体でかかわるのではなく、事実を確認し、共感的理解をすること・患者の思いを理解すること、傾聴することとはどのようなことか学ぶことができた・傾聴・共感する姿勢が大切だと学んだ
- ・目つきや表情、言動には、一つひとつ理由があるということ、自己で解決するのではなく、確認をするということ
- ・一つひとつの言動に意味を見出すことが大切と思った・患者の言動の意味をどのように理解していけばよいかのポイントが学べた
- ・相手の意見と自分の意見のくい違い、ズレはあるが、その中で自分の相手の意思を尊重すること・自分がもしその場に出会ったら・・・と考えることができた・発言の裏にある思いを今までの情報から考えること
- ・自分の言葉と患者さんの言葉にズレがあったということを知った
- ・コミュニケーションをとる中で患者さんの思っていることと、自分の思っていることにズレが生じているということもあるので、そのつど教えていく必要があるということを知った・一人ひとり考え方が違ってケアやコミュニケーションの正解は1つではないということ・コミュニケーションとは患者の数だけ様々な形があること
- ・自分の思いをちゃんと伝えられない人の場合、その人が何を思っているのか考えて対処することの大切さ・患者さんとの関わりは難しいががんばってかかわろうとすることが大切
- ・患者と多く関わりをもつと信頼関係が築けることができるということ、患者のことを知ろうということが大事であるということ・患者とどのような思いで関わるのが大切であるかということを知った

やしぐさなどをしっかり読みとることが大事」「関わり方、言動をどのようにとらえるか」「自分主体でかかわるのではなく、事実を確認し、共感的理解をすること」「患者の思いを理解すること」「傾聴することとはどのようなことか学ぶことができた」などの記載があった。

Ⅵ. 考 察

1. 資料として用いているプロセスレコードについて

外口¹¹⁾は、自分自身の中に生じている事柄を察知する力、さらにその成り行きを見届けていこうとする力などのさまざまな力が看護師の行為化のプロセスに必要とされていると述べている。また、看護師の動作をひきおこし、その関心を集中させるものは、患者のそのときどきの状況への反応としての患者の知覚の仕方やそれにもとづく患者の言動であると述べ、事例検討が有効な自己学習の方法であると指摘している。今回のプロセスレコードの記述理由は、「うまく返答できなかった」「患者の思いを把握する」「声かけが適切であったか」「どのように対応すればよかったのか」などについて振り返ることが主な理由であった。学生は、自らの対応のあり方やコ

ミュニケーションの方法あるいは対象者の思いを理解しようとプロセスレコードを記述しており、患者の言動に関心を寄せている。したがって、プロセスレコードを記述するために対応場面を想起すること、さらにプロセスレコードを用いて事例検討を行い、対応場面を丁寧にみていく作業は、外口が述べているように、学生自らの言動と患者との間に、どのようなことが起こっているかあるいはどのような場面であったかを学習できる有効な方法であると考えている。

2. 態度分析にみられる学生の特徴と課題

大段¹²⁾は、面接場面における人間関係の型を決定するのは態度の条件によると述べ、理解的態度以外の4つの態度は、こちらが外側から何らかの働きかけをして、相手をこちらの思う方向へかえていこうとするものであり、人間関係における操作的アプローチに立つとし、理解的態度のみが操作しようとししないアプローチであるとした。今回の学生の記載例から、患者への態度については、次のように分析できた。

まず、調査的態度の学生の場合、「死にたくなるぐらい辛い」と発言している患者に対して、「どこが辛いのか」と訊ね、次に「(辛いのは)何ででしょうか」と聞かれていることに対して、「薬は塗

りましたか」と訊ねている。それから、「もう死にたい。苦しいですよ。楽しみもない」との発言に「盆栽は楽しみではないですか」と訊ねている。これは、原因探求をするために患者に訊ね、その原因がわかったならば、それに対する処理方法を考えるといった学生を中心に展開している場面であり、「死にたくなるぐらい辛い」という患者の訴えには応えていない対応になっていた。

次に、支持的態度の学生の場合、下を向き不安げな表情をしている患者が、「歩行器がないと歩けない、手先も自由がきかない。寝たきりになってしまうのかな」と訴えているのに対して、「患者の気持ちが後ろ向きになってしまう。何とか励まして気持ちを前向きにしたい」と考え、「でも、手術の後からとても上手に歩けるようになったじゃないですか。まだまだこれからです。大丈夫ですよ」と応えていた。これは、援助者が「あなたの現在の感じ方や考え方は不必要である」と言っていることになり、援助者の意図とは別に、事実として相手の心の動きを抑圧しようとするはたらきかけとなっている場面となった。つまり、深刻な感情や不安を除去し落ち着かせるために、学生が「大丈夫ですよ」と保証して、歩けなくなり手先の自由が利かず寝たきりになるかもしれないといったことを考えなくてよいと心の動きを抑圧している操作的な対応となっていた。

解釈的態度の学生の場合、発熱があり暑いと服を脱ごうとしている患者に対して、服を脱ぐと熱が出ている状態が悪化するので、服を脱ぐのをやめさせようとしていた。これは、「あなたはこのような考えるべきである」と伝えていることになり、客観的に患者の行動を外側からみて、外側から動かそうとしていることになる。つまり、発熱があり「暑いから服を脱ごう」としている患者の意図には関係なく、患者の行動を変えようと説得しようとしている対応になっていた。

評価的態度の学生の場合、誤嚥する危険性がある患者の食事摂取の行動を変えてもらおうとかかわっていた。食事摂取のペースを変えない患者に対して、「もう少しゆっくり食べてみましょう。水分はとらなくてもよいですか」「一口で入れる量が多いですよ。のどにつまるでしょう。のどに詰まってむせないように少しずつ食べてもいいですよ」と伝えているが、患者はうんざりしているという場面であった。これは、患者がなすべきこと、なすべからざる

ことを指示していることになり、基準に照らし合わせて、一方的に外側から患者を変えようとしている対応になっていた。

最後に、理解的態度の学生の場合、患者の隣のおばあさんが朝方早くから起きて面倒で眠れなかったと訴えていることに対して、それで夜は眠れずに少しイライラしてもいるようだと考え、「そうなのですね。お隣の方が朝方に起きられたので、眠れなかったのですね」と返していた場面である。これは、相手の感情などをありのまま受け取り正しく理解しているかどうか、それを確かめようとしている状況である。したがって、患者が「こんな話を聞いてくれてありがとうね」と落ち着いた様子で返す対応となっており、内側からのほたきかけになっていた。

以上の態度分析からいえることは、看護教育では相手のアセスメントや、状況判断、評価を常に行うように要求する⁶⁾ことから、看護師と患者との関係において、患者は情報提供者であり看護師はその情報から問題を構成し解決方法を考える立場¹³⁾、また、患者は看護師が考えた解決方法に従えばよいという受け身の立場であり主体性がない立場¹³⁾となっていたということである。つまり、学生は、その場面の患者自身ではなく問題に関心を寄せており、学生自身を中心に展開した場面であったといえる。大段¹⁴⁾は、我々はややもすると患者の心理や患者の背景を探り出そうとしたがり、そういった場合は看護師と患者は調べる者と調べられる者の関係になってしまい、患者は看護師に合わせるだけの対応になると述べている。加えて、Combsら¹⁵⁾は、たいていの人々の会話の目的は、他の人々が言わねばならないことを聞くことではなくて、自己を表現する機会を楽しむことであり、真の傾聴はめったに用いられない技術であるとしている。今回の結果で、理解的態度以外の4つの態度で98.5%を占めていたことは、多くの場面において大段が示した「外側から相手にはたらきかけ」「調べるかかわり」をしていることが多いこと、Combsらが示した「聴くことはではなく自らを表現する関わり」をしており、学生を中心に展開したかかわりや対応の場面が多く、調査の態度が多かったこととも一致する。

プロセスレコードの記述理由は、「うまく返答できなかった」「患者の思いを把握する」「声かけが適切であったか」「どのように対応すればよかったのか」などについて振り返ることが主な理由であった

が、言葉で何をどのように言ったり伝えたりするかということ以前に、対人援助では援助する側の態度を基盤とすること、我々の態度が相手にとってどのようなことを意味するのかについて学習することが必要であり、そのような学習の場を用意することが教育上の課題であるといえる。それによって、自己や他者の理解を深めていくことができると考える。

3. 事例検討会について

今回、事例検討会について、学生の95.6%が有意義で役に立ったと評価をしており、個別の場面をグループで討議する教育方法として、事例検討会の意義は大きいと考える。

外口¹⁶⁾は、事例検討の意義は自分自身がある臨床状況のなかでどのように機能しているかを自覚できることにありとし、さらに、相手にどのように自己が活用されていくことができるのかという看護師にとっての最大の課題である自己提供・自己活用のための有効な訓練方法であるとしている。事例検討会に対する学生の意見の中からも、「いろんな意見を聞くことができ考えを深められた」「自分の意見をいろんな方向から見られた」「いろんな人からの意見を聞くことで違った視点から看護できた」「いろんな意見を聞いてより学びが深まった」「自分だけの考えだけでは見えてこなかったことを知ることができた」「他の学生の考えを聞くことはよい勉強になった」などがあがっており、外口が指摘するように自分自身がどのように機能しているかを自覚できているといえる。

また、外口¹⁷⁾は、事例検討の真髄は、語らいという表現方法を介して、より創造的なものとして行った看護を互いに再生していくプロセスであると指摘し、人と人が語り合っているときというのは、積み重ねてきた体験を思い描きつつ、想像力を働かせて互いに経験していることを経験しあっているものであると述べている。今回、授業評価の記載に「他の学生の考えを聞くことは、よい勉強になった」「様々な捉え方がある」「他の人の考えを聞くことで、自分の考えの参考にしたり、こういう考え方もあるということを学べた」「自分が考えていること以外の考えや指摘されて分かることが多い」「人はそれぞれ考え方が違う」などの内容があった。このことから、事例検討会そのものは、外口が指摘した自己活用のための有効な訓練であり、学生同士で語り合う

ことにより、自己とは異なる見方や考え方をする他者を受け入れることができる経験の場、つまり自己を客観視できる場ともなっていると考える。森¹⁸⁾のは、学生の人間理解においては、自己理解を基盤に他者理解につなげるというプロセスだけではなく、他者に興味・関心を抱き、近づこうとする他者理解の過程において、改めて自己への関心が生じ、自己と対峙した結果、自己理解が深まるというプロセスの存在が認められたとしている。患者との対応のあり方について学生は、「自分主体で関わるのではなく、事実を確認し共感的理解をすること、患者の思いを理解することが重要である」と学んでおり、森の報告と同様に、「自己理解」は「他者理解」することに他ならないことを示していると考ええる。

大段¹⁹⁾は、一人の人との間に援助関係をつくりあげるいちばんの近道は、積極的傾聴の態度を実際にとることであるとした。また、積極的傾聴の態度を実現するには、「相手の言葉にこもっている意味を全体として理解しよう」として聴き、「相手の感情に応答する」ことが大切であるとする一方で、積極的傾聴の態度を実現することを難しくするのは、ケアを提供するこちら側内部の問題であるとし、「自分とちがう考え方や感じ方を拒否したり」「自分の立場や見方を相手の攻撃から防衛しようと身構えたり」「感情的になって自分を見失ったり」するときであり、その場合、相手に対する援助や指導が不可能になると示している。したがって、援助の関係形成能力の育成に向けて、自己と向き合い他者と向き合う事例検討会は重要な場であり、自己理解や他者理解を深めていく教育方法として効果的であるといえる。

VII. 結 語

事例検討会に用いているプロセスレコードおよび実習終了後に実施している授業評価（FD）の記載内容のうち、事例検討会に関する記載を分析することにより、自己理解と他者理解を深めるための教育方法を検討した。その結果、以下の結論を得た。

1. プロセスレコードは、患者との関わりにおける自己の傾向に気づき振り返る学習ができる有効な方法である。
2. Porter の態度分析で分類した結果、多い方から、

1) 調査的態度63記載 (46.3%), 2) 支持的態度40記載 (29.4%), 3) 解釈的態度22記載 (16.2%), 4) 評価的態度9記載 (6.6%), 5) 理解の態度2記載 (1.5%) の順であった。調査的態度が多かったことは、自分を中心に展開している場面が多いこと、さらに技術として真の傾聴が用いられていないといえる。自己や他者の理解を深めていくためには、援助する側の態度とそれが相手にとってどのようなことを意味するのかについて学習することや学習の場が必要であり、今後の課題である。

3. 事例検討会は、学生が自己と向き合い他者と向き合うことができる場となっていた。これは、自己理解と他者理解を深め積極的傾聴の姿勢を育成する上で有効な教育方法であることが示唆された。

謝 辞

本研究にご協力いただいた学生の皆様に深謝いたします。

なお、本論文の要旨は、日本応用心理学会第81回大会において発表した。

文 献

- 1) 荒谷美香, 務臺理恵子, 加藤紀代美, 他: 臨地実習につながる模擬患者参加型コミュニケーション演習. 看護展望, 35 (4): 340-345, 2010.
- 2) 加藤睦美, 長倉里加, 中島千里, 他: 学生が体験した患者とのかかわりで悩んだこととそこからの学びの検討. 四日市看護医療大学紀要, 4 (1): 27-36, 2011.
- 3) Rosalinda Alfaro-LeFevre: Applying Nursing Process: A Tool For Critical Thinking 7th edition/ 本郷久美子監訳, 基本から学ぶ看護過程と看護診断, 第7版, 医学書院, pp48-49, 2012.
- 4) 山田ゆかり, 天野寛: 看護職におけるコミュニケーションの分析－事例および応答態度テストの特徴－, 名古屋文理短期大学紀要, 25: 1-9, 2000.
- 5) A.W.Combs/ D.L.Avila/ W.W.Purkey: Helping Relationships: Basic Concepts for the Helping Professions / 大沢博・菅原由美子訳, 援助関係 援助専門職者のための基本概念, 初版, プレーン出版, p175, 1985.
- 6) 見藤隆子: 人を育てる看護教育. 第1版, 医学書院, p133, 1987.
- 7) 板谷裕子: 傾聴とは?, 岡山医学界雑誌, 117: 237-238, 2006.
- 8) 大段智亮: 人間の看護の出発点. サンプル看護研修センター, pp198-199, 1986
- 9) E.H.Porter: An Introduction to Therapeutic Counseling. Dyson Press, pp171-188, 1950.
- 10) 前掲6) pp209-211
- 11) 外口玉子: 方法としての事例検討. 日本看護協会出版会, p7, 1981.
- 12) 大段智亮: 面接の技術. メヂカルフレンド社, pp124-125, 1978
- 13) 前掲8) pp126-127
- 14) 前掲12) pp34-35
- 15) 前掲3) p158
- 16) 前掲9) pp14-15
- 17) 前掲9) pp37-38
- 18) 森真喜子: 精神看護学実習における人間理解のプロセスに関する研究. 第32回日本看護科学学会学術集会講演集, 549, 2012.
- 19) 大段智亮: 積極的傾聴Ⅰ カールロジャースの《援助関係の理論》をめぐって, サンプル看護研修センター, pp206-207, 1990.

(平成27年1月31日受理)

Significance and Educational Effects of Case Studies Improving Understanding of Self and Others : Towards Developing a Practical Ability to Build Supportive Relationship

Hiroataka TAKUSHIMA, Yasuko TANAKA, Megumi NAKAHARA,
Hanami HADANO, Katsunori YAMAMOTO

The purpose of this study is to examine educational methods for improving understanding of self and others by analyzing the case studies conducted after the clinical nursing practice.

The following are the results obtained:

1. The nursing students were concerned about the patients' behaviors, the methods of communication with them. Process record was to effective study method for the students to review the interaction between the students and the patients, or the circumstances in which the interaction was occurring.
2. According to the attitudes analysis of Porter's counselor's attitude, the recorded attitudes of the students in the process record showed the highest mark in probing attitudes, which indicates that the students' tendency to self-centered attitude and their lack of use of attentive listening. To improve understanding of self and others, it is need to cultivate students' attitude toward patients and to provide them appropriate school courses.
3. In the evaluation of the case studies, 95.6% of the students answered the case studies were significant. Thus, case studies can be said to be an effective educational methods for improving understanding of self and others.